

作文指導の考察

— 評価の問題を中心に —

奥 本 昭 三

- 1 はじめに
- 2 作文指導計画の評価
- 3 作文単元展開の評価
- 4 取材活動と作品の評価
- 5 おわりに

1 はじめに

指導のあるところ必ず評価がなされなければならないのであるが、私の評価活動をふりかえってみると、評価意識の弱さを反省させられることが多い。学習者の評価をすすめていく私の、つまり評価主体の確立が急務であることに気づかせられる。評価の重要性を認めながら、具体的な実践において十分に追求しえなかつた姿をありのままに捉え、これからの営みを少しでも前進させたいと思う。

ここでとりあげるのは、昭和36年度における一年生の作文指導の実際であり、ささやかな記録にもとづいて自己の評価活動を反省

し、評価の問題を考察していきたい。

まず、指導計画を反省して気づかせられることを述べ、次に作文単元の展開の反省および気づきをとりあげる。これらは、作文指導における指導者自身の自己評価という観点にたつものである。第三に取材活動と作品の評価の問題をとりあげることにする。

2 作文指導計画の評価

(1) 指導計画の概略について

年間の作文指導計画について、私のばあい、あらかじめ綿密な計画をたてて進めるといふのではなく、教科書の単元の展開に沿って、できるだけ多くの機会を捉えて書かせることに努めることを第一の目標にした。

およそのめやすとして、次に示すような学習内容を考えていた。

△第一学年作文指導計画V

単元	小 単 元	指 導 の 重 点	学 習 の 内 容
I 学校へ行く道	一 学校へ行く道 二 私の名前 三 へいをぬるトム ツィヤ	○進んで文章に書き表わす。 ○必要なことを落ちなく文章に書く。 ○要点を明確に書く。	(一)自己紹介のために文章を書く。 (二)「中学生になって」の喜びや覚悟を、小学校の先生にあてて手紙で知らせる。 (三)ノートに学習したことがらをくふうして記録する。
II 書物に親しむ	一 本を読もう 二 ポチ 三 青大将	○要点を明確に書く。 ○進んで文章に書き表わす。	(一)自分の読書生活をみんなに報告するために文章に書く。 (二)読書感想文を書く。
III 昔の話	一 七つの泉 二 海幸山幸 三 伝説を調べよう	○必要なことがらを落ちなく書く。 ○進んで文章に書き表わす。 ○自分の書いた文章をねる。	(一)調査記録を書く。 (二)「神話や伝説を調べて文章に書き表わし、みんなに紹介する。 (三)「作文メモ」をもとにして、日常生活の中から取材した作文を書く。
IV 物を見る目	一 日記 二 ありのちえ	○進んで文章に書き表わす。 ○要点を明確に書く。	(一)日記を書く。 (二)観察記録を書く。また題目をきめてリポートを書く。
V みんなで作ろう	一 学級新聞を作ろう 二 文集ひろば 三 ぼくのでんぶらあげ	○必要なことがらを落ちなく書く。 ○進んで文章に書き表わす。 ○自分の書いた文章をねりなおす。	(一)学級新聞に載せるために記事を書く。 (二)文集に載せるために詩や文章を書く。 (三)夏休みに体験したことを作文に書く。 (四)夏休み中の生活を、先生に手紙で知らせる。

<p>Ⅵうたう ころ</p> <p>一 詩と感覺 二 山頂から 三 車おし</p>	<p>○進んで文章に書き表わす。</p>	<p>(一)詩を読んで感想文を書く。 ○感動したことを詩や短い文章に書き表わす。</p>
<p>Ⅶことば のきま り</p> <p>一 ことばをとらえる 二 ことばのきまり</p>	<p>○要点を明確に書く。 ○語句を適切に使いわけろ。</p>	<p>(一)自分のことばの生活をふりかえって反省させられることを、みんなに発表するために文章を書く。 (二)「作文メモ」をもとにして、日常生活に取材した作文を書く。</p>
<p>Ⅷものが たり</p> <p>一 くもの糸 二 わがはいは猫である 三 石のしし</p>	<p>○進んで文章に書き表わす。 ○必要なことを落ちなく書く。</p>	<p>(一)読書感想文を書く。 ○冬休みの生活を先生に手紙で知らせる。</p>
<p>Ⅸ劇をし よう</p> <p>一 幻燈会「杜子春」 二 魔法つかいのでし 三 劇をするにはどうしたらよい</p>	<p>○文章をねりなおす。</p>	<p>(一)スライド台本を書く。 ○「作文メモ」をもとにして、日常生活に取材した作文を書く。</p>
<p>Xストウ 夫人</p> <p>一 ストウ夫人</p>	<p>○進んで文章に書き表わす。 ○要点を明確に書く。 ○必要なことがらを落ちなく書く。</p>	<p>(一)読書感想文を書く。 ○自分の一年間の国語学習を反省して、文章に書き、みんなに報告する。 ○中学一年を終えるに当たって、新しくは入ってくる一年生に希望することを手紙に書く。</p>

これは十分に検討し、指導目標・留意点・指導法などを加えて、具体的に活用できるものにする予定であったが、結局一年間これ以上手を加えず、埋もれさせてしまった。

実際に行なった書く活動の概略は次に示すようなものである。
△第一学年作文学習の実際▽

単元	単元に関連させて書くこと	生活を書くこと
I 学校へ行く道	<ul style="list-style-type: none"> ○「自己紹介」のためのメモを書く。 ○「先生を紹介する文」を書く。 ○「へいをぬるトム・ルソーヤ」の感想文を書く。 ○「私の国語の勉強法」をかじよう書きにする。 ○「ノートの使いかた」「単元Ⅰのまとめ」(プリント)を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語学習日誌」を書く。 ○一時間の学習を終えての感想や反省をノートに書く。 ○夢や希望を内容とする「作文メモ」を書く。 ○「作文メモ」を書き、作文を書く。「作文反省」や「友だちの文章をみて」を書く。 ○「素晴らしい風船旅行」(映画)をみての感想文を書く。
II 書物に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ○「青大将」を読んで感想文を書く。 ○「ポチ」を読み、「ポチからみた私」を書く。 ○「読書カード」を書く。 ○「ノートの使いかた」「書物に親しむを終えて」(プリント)を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テストの反省を書く。 ○「作文メモ」を書く。 ○「作文題材表」を読み、「作文メモ」を書く。
III 昔の話	<ul style="list-style-type: none"> ○「七つの泉」の感想を書く。 ○「海幸山幸」の感想を書く。 ○「ノートの使い方」「昔の話を終えて」(プリント)を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テストの反省を書く。 ○「作文メモ」を書く。 ○国語ノートの「反省」や「感想」を書きぬく。 ○「夏休みをこのように送りたい」という題で短い文章を書く。
IV 物を見る目	<ul style="list-style-type: none"> ○リポート計画を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「一学期国語学習を終えて」を書く。 ○「作文メモ」を書き、作文を書く。 ○夏休みの課題 1 「作文メモ」「作文」「作文反省」を書く。

<p>V みんな で作ろ う</p>	<p>○壁新聞のために記事を書く。 ○壁新聞を読んで批評を書く。 ○「はくのてんぶらあげ」の作者に言いたいことをひとこと書く。</p>	<p>2 夏のたよりに書く。 ○「作文題材一覧表」を読み、「作文メモ」を書く。 「作文」「作文反省」を書く。</p>
<p>VI うたう ころ</p>	<p>○自分の感動や気持ちを「詩」または「文章」に書き表わす。</p>	
<p>VII ことば のきま り</p>	<p>○「くもの糸」の感想を書く。 ○作中人物に手紙を書く。 ○「わがはいはねこである」の感想文を書く。 ○「石のしし」の感想文を書く。</p>	<p>○「作文メモ」を書く。 ○国語ノートの「反省」「感想」を書きぬく。 ○「二学期国語学習の反省」を書く。 ○冬休みの課題 1 読書感想文を書く。 2 「作文メモ」を書く。 ○自分の冬休みの思い出三つを書く。</p>
<p>VIII 劇をし よう</p>	<p>○「魔法つかいのでし」の感想文を書く。 ○録音(テープ)を聞いて気づきを書く。 ○「杜子春」の感想を書く。 ○スライド台本を書く。</p>	<p>○「作文メモ」を書く。 ○「作文」「作文反省」を書く。</p>

○スライド上映についての反省を書く。

Xストウ

○「ストウ夫人」の感想を書く。

夫人

○「三学期国語学習の反省」を書く。

○国語ノートの「反省」「感想」を書きぬく。

(2)反省したこと

①書くことの指導目標の理解が不徹底で、価値のある学習活動を営ませるしくみができていなかった。具体的な目標、学習活動、時間配当を定めた年間計画を新学期の発足までにせひとも作成しておきたい。単元に関連させて書くばあい、あるいは自由に生活の中から取材させて書くばあいを考えて、書く機会や場を計画の中に明確に組み入れておく必要がある。価値のある学習活動をさせるために、学習計画の樹立を第一に考えておかななくてはならない。

②入学当初の作文として「中学生になって」という形のものが多い。私のばあい、はじめは自分の入学の喜びや覚悟を小学校の恩師にあてて手紙に書くという形できりあげようとくろんでいたが、結局は旧来のやりかたに流れてしまった。また「書物に親しむ」の単元のところでも、「自己の読書生活の報告」を考えていたが、これもとりあげないままに流れた。その他、先に掲げた指導計画の中で考えていた学習活動のいくつかが、とりあげないままになっている。このことは計画自体の弱さであり、また学習活動のひとつのアイデアを計画の中に大胆に組み入れて実践していくこと、弱さであり反省させられることである。

③自由に生活の中から取材させる活動が多かったわけであるが、

取材活動の目標は漠然としていた。学期ごとの取材目標もきめてはいなかった。年間、当然段階をもって計画的に指導することが必要で、社会的な視野をもつ取材を願いながら、平凡な取材のくりかえしに終わった。たとえば、一学期は日常身辺の生活から、二学期は学校生活から、三学期は社会の問題からというように、取材の方向を定めて計画の中に組み入れておくことが必要であった。

④指導計画の中に評価の観点を設けておくことも必要なことである。このことが計画を実践に結びつける大きな力となる。ややもすれば、形式的な観点を示すだけにとどまりやすいが、評価や処理の具体的な方法を計画の中に示しておかないと、書く活動は恣意的に流れてしまう。

⑤国語ノートに毎時間、反省や感想を書きとめるという活動も、ただ思い浮かんだことをなんでも一、二行書きつけるようにすすめ、書くことの習慣づけをめざしたが、マンネリズムに陥り、やがて書かなくなってしまう。ひとつの観点として、一学期は自己の学習態度について、二学期は学習内容についての感想や反省を、三学期は学習したことがらの要点を書くというふうに定めて、指導計画の中にあらかじめ組み入れておくようにしなければならぬと思ふ。

⑥年間の書く活動は、私のばあい、感想文・学習の反省文・生

活文に大別できる。手紙・記録・報告などが殆どとりあげられていない。このようなかたよりは十分に反省し、書くに必要な場をそれぞれに設定しておかなくてはならないと思う。中学校にはいつて一か月勉強し、自分の国語の勉強法を先生に報告するという形をとらせることも可能であったし、また毎学期末、国語のノートの記録として、反省や感想を書きぬかしているが、単なる書き写しにとどめず、考察を加えさせて報告書として提出させるなど、くふうの余地は大いにあったと反省させられる。

(3)問題点

①学習計画樹立への意志をもつこと。

時	目 標	学 習 活 動	実 践
I	1 学級新聞の経験について話し合う。 2 学級新聞を作るねらいと作りかたを知る。 3 学習計画をたてる。	1 学級新聞を作った経験の話し合い。 2 「学級新聞の作りかた」を読みとり発表する。 3 壁新聞を作るグループをわけ、グループ内組織を考える。 1 「どんな記事を書きか」のなかの掲載記事と注意をわけて書いてみる。 2 「記事の書き方」を読み、整理して発表する。	I 1 学級新聞を作った経験を発表する。 — 新聞名・目的・作りかた — 2 「学級新聞を作ろう」——(一)ぼくらの顔の記事(二)学級新聞の作り方を読み、学級新聞のねらいと作り方を理解する。 3 どのようなグループで学級新聞を作るか話し合う。 II 1 (三)どんな記事を書きか——を読み、掲載記事の内容および注意を表にする。 2 (四)記事の書き方を読み、新聞記事の特色を理解する。
II	1 新聞記事の内容と注意を理解する。 2 記事の書き方を理解する。		

② アイディアを大胆にとりいれること。

③ 具体的な学期ごとの目標・作品形態を考慮すること。

④ 評価の観点を明示しておくこと。

など、一言にして言えば、計画意義の弱さ、評価意義の脆さということになる。生徒の中に育まなければならないものへの情熱をかきたてていくようにするほかはない。

3 作文単元展開の評価

(1) 作文単元の展開の概略について

とりあげた単元は「みんなで作ろう」——学級新聞と文集——である。展開の概略は次に示すようなものである。

X	IX	VIII	VII	VI	V	IV
<p>1 作文活動</p>	<p>1 「作文メモ」を書いて作文を書く。</p>	<p>1 夏休みの作文について考える。</p>	<p>1 「作文」を読み、感想を話し合 5</p>	<p>1 新聞についての反省 2 文集活動について理解する。</p>	<p>1 新聞についての反省 2 文集活動について理解する。 3 文集を紹介する。</p>	<p>1 新聞記事を書く。 (1) 進んで文章を書く。 (2) 記事の書き方にあった文章を書く。</p>
<p>1 作文活動</p>	<p>1 「作文メモ」を書く。</p>	<p>1 作文題材一覧表を読む。 2 作文を紹介する。 3 原稿用紙の書き方を理解する。</p>	<p>1 「ぼくのてんぶらあげ」を読む。</p>	<p>1 壁新聞の完成 2 グループで話し合い、掲載記事をきめる。</p>	<p>1 壁新聞の完成 2 グループで話し合い、掲載記事をきめる。 3 文集を紹介する。</p>	<p>1 個人で取材して新聞記事を書く。 2 グループで話し合い、掲載記事をきめる。</p>
<p>X</p>	<p>XI</p>	<p>VIII</p>	<p>VII</p>	<p>VI</p>	<p>V</p>	<p>IV</p>
						<p>(前時のつづき)</p>
	<p>1 「ぼくのてんぶらあげ」題のつけ方について考える。</p>	<p>1 「ぼくのてんぶらあげ」を読んで感じたことを発表する。</p>	<p>1 「ぼくのてんぶらあげ」を読んで感じることを発表する。</p>	<p>1 壁新聞の批評をする。</p>	<p>1 学級新聞を仕あげる。 2 記事を書く。(ノートーザル紙一回覧)</p>	<p>1 学級新聞を作るためにグループにわかる。 2 新聞名を考え、記事の内容をあげて分担をきめ、記事を書く。</p>
<p>1 「原稿用紙の書き方」を読む。 4 「作文メモ」を課題とする。</p>						

②「私の名前」(生徒作品)を「作文メモ」の項目に従って読みとり、そのあとで前に書いた「作文メモ」に新しく一枚をつけ加え、書き直しをすることを課題とする。

③中間テストの処理のあとで、「作文メモ」を配布し、課題とする。

④単元Ⅱのまとめ、ノートの自己評価をしたあとで「作文題材一覧表」を読み、これを参考にしながら「作文メモ」を書く。

⑤期末テストの処理のあと、「作文メモ」(三枚)を課題とする。

⑥「作文題材一覧表」を配布し、「作文メモ」(三枚は自由に一枚は「家族に喜んでもらうには生活をどのように送ったらよいか」について。)を夏休みの課題とする。

⑦「作文題材一覧表」をみて、良い題材を考える。「ぼくのてんぶらあげ」(生徒作品)を「作文メモ」の項目に従って読みとり、構想をくわしくという注意を与えて「作文メモ」を課題とする。

⑧「くもの糸」を学習したあと、「作文メモ」を課題とする。

⑨「作文メモ」(四枚)を冬休みの課題とする。

⑩「作文題材一覧表」を読んで、良いと思う題材とその理由を考える。期末テストのあと「作文メモ」を課題とする。

(2)反省したこと

①十回の取材活動のうち、大半は自由取材である。一方では自由に取材させて適宜提出させるとともに、また一方では取材の目標や範囲をしばって取材活動をさせる必要があると思う。年間計画のところでもふれたが、自由に取材させるだけでは、平凡な取材に終わって、マンネリズムに陥ってしまう。

②取材結果は、四回にわたって題材一覧表にして生徒に与えた。

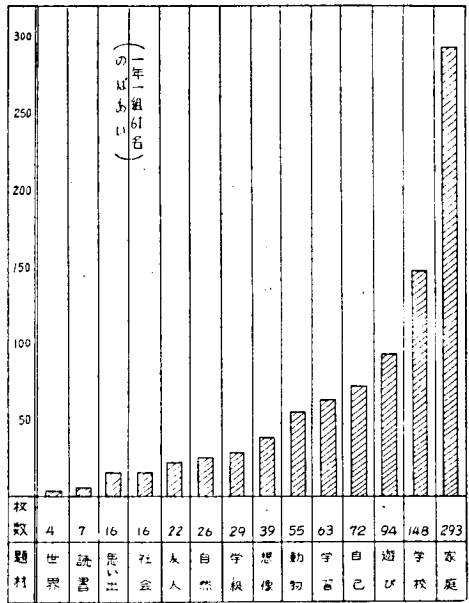
自分のクラスのものだけでなく、できるだけ他のクラスのものも読ませるようにした。一回は、主として作文メモの記入のしかたを中心に、二回目は観点をあげて読ませるようにし、三回目は簡単な題材についての話し合いに、四回目は良い題材とその理由の発見に利用した。

取材結果の全体的な処理としては、このような一覧表にするとき、もっと整理し、すぐれたもの、特色のあるものがつかめるように類別し、有効に利用できるようにしておかなくてはならない。

③家庭作業としてやらせているのが殆どである。自主的な取材活動をすすめるようにし、また、学習活動の流れの中で短時間でもとりあげて取材の目を開いていくくふうがぜひ必要である。

④一・二・一〇回めの作文メモに簡単に朱をいれたのみで、あとは手をつけなかった。個別的な指導や評価のために、記録のしかた、機会の発見に努めなければならない。また、取材のための事前の指導を十分にしておいて、価値のある題材・書くに値する題材を発見させるような配慮が必要である。

⑤課題取材をのぞいた年間の八八四の作文メモから取材傾向を表にみるができる。自由選題であり、家庭作業として書かせたものが殆どであるから、家庭や学校に取材したものが多いのは当然である。自己を深めていく方向のもの、社会的視野を広げていく方向のもの、想像を豊かにふくらませる方向のものなど留意していかななくてはならないように思われる。



(3) 問題点

作文学習における事前指導としての取材活動において問題点を次のようにあげたい。

① 個別指導・個別評価

② 取材範囲の拡大・深化

個別指導については、たとえば個別的に取材一覧を作り、取材の度毎に累積記録して自己の取材傾向に気づかせ、また取材の一斉提出よりも個別的な提出の機会を多くして、提出のつど助言のできる機会を設けることが考えられる。

△ 作品の評価

(1) 「作品」制作の実際は、次に示すようなものである。①と③の

二回が課題作文であり、他の三回は自由に取材した作文メモをもとにしての作である。

① 「作文メモ」による取材活動の①②……：自分の夢や希望を内容とする「作文メモ」二枚を返し、それらを検討して、作文を書くことを課題とした。次の時間、

i 「作文反省」用紙を与えて、めいめいの作文を書いた時の気持ちを記入する。

ii 互に交換させて、友だちの文章を読ませ、「友だちの文章をみて」の用紙に記入させていく。

iii さいごに、友だちが書いてくれた気づきを本人がひきとって、自分の文章をねりなおす時間を予定していたが、時間のつごうで省いた。

② 「作文メモ」による取材活動の⑤……：「作文メモ」三枚を返し、そのうちひとつを選んで作品を書く。できあがったものは「作文反省」用紙に記入する。

③ 「作文メモ」による取材活動の⑥……：夏休みの課題「家族に読んでもらうために生活をどのように送ったらいいか」のメモから作品を書く。「作文反省」を書きとえる。

④ 「作文メモ」による取材活動の⑦……：「作文メモ」をもとに、i 作文を書く。(40分)

ii 構想の番号ごとに、書くとき段落を設けるように注意する。

iii 「作文反省」を書く。

⑤ 「作文メモ」による取材活動の⑩……：「作文メモ」をもとに、

i 四枚のうち一枚を選んで書く。

ii 「作文反省」を書く。

評価の観点としては、一応次にあげるようなものをもっていい。

① については、

i 夢や希望が書いてあるか。

ii 理由づけ、実現への具体策があるか。

② については、

i 作文メモの内容にあっているか。

③ については、

i 具体的な考えが述べてあるか。

ii 構想がしっかりしているか。

④ については、

i 構想がしっかりしているか。

ii 原稿用紙の書き方に沿っているか。

⑤ については、

i 書きたいことが表現されているか。

ii 構想はしっかりしているか。

iii 表記上の注意が守られているか。

(2) 反省したこと

① 相互評価は、完全に実施したのが一回のみである。作文を書いたあとで、自己評価・相互評価をし、推考作業をさせるように考えておりながら、時間の関係で省略した。ともかく作品を書かせておけばという安易さに溺れてしまっていた。いつのばあいでも書きあげて自己評価をして気づき、友だちに教えられて気づくということを経験させたいものであった。

② 評価の観点は、何のために、どういうことを書きたかったのか

をだいなめやすとすることができる。書く目的と、目的にふさわしい内容であるかを生徒自らに検討させるためにも、書く前の取材活動における「作文メモ」のたねんな指導が必要である。

③ 「作文メモ」「友だちの文章をみて」などにおいて、目的・内容にふさわしい評価用紙への記入が完全に実施されれば、評語の必要はなく、作者自身ができるだけ多くのことに気づくように、書いたものも、読むものもはっと気づくように気づくように、書いたものと用紙のくふうを重ねていかななくてはならないと思う。

(3) 問題点

書く前の指導の重要さとともに、記述された作品の評価のために、自ら書いたものに気づき反省を重ねていくための評価として、自己評価・相互評価のくふうが問題点である。

4 おわりに

作文学習における評価の問題は、切実な問題として私どもの前に横たわっている。今まで述べてきたことは、ささやかな実践の反省からの問題点の指摘にすぎないが、これから評価の問題にとりくむための出発点にしたいと思う。

(本稿は昭和37年10月20日、第二回実践国語教育中国大会の分科会で口頭発表したものを中心にまとめたものである。)

(広島市国泰寺中学校教諭)